

2017/4/30

(日々雑感 95) 小修正版



向かって来る来る、攻めてくる。どんどんどんズカズカと、スマホ見ながら攻めてくる。老いも若きも攻めてくる。我が子や目の前顧みず、スマホどっぷり攻めてくる。不気味なばかりの「スマスマおんな」スマホ片手に攻めて来る。

一体どうなっちゃってるんでしょう？絶対どかないんです。どいてくれないんです。全部僕の方が道を空けているんです。

前を歩いているヤツもスマホ見ながら道一杯に拡がっていて、自分も追い越せないし、前から来る人もスムーズには通れないので、その脳天気女子高生に

「こら、われ！片方に寄らんかい！前から来る人が通れひんやろが。このだぁアホ！！」と敢えて凄みを利かす為に関西弁で後ろからどやしつけたこともありましたが、一回はのけぞって脇に飛び退き「すみません」と殊勝な態度を示したものの、程なく見かけた次回には、又もや元の木阿弥。元に戻って同じ光景の繰り返し。

まるで、周りというか人や景色がまるで眼中に入っていないのです。全く。気づきもしない。自分以外に人や物や景色があると言うことに。忘れていると言うより、気づいてすら居ないのでしょ。

「スマホおんな」の「完全お膳立て人生」

ふと、そんな言葉が浮かびました。

もう少し丁寧に言うと

「親が子供のご機嫌を取るようになって、諸事万端すべてセッティング完了。さき、王女さま、何の問題もございませんので、赤絨毯の上をお歩き下さいませ、という「お膳立て」当然、それをしてくんなきゃヤダ。してくんなきゃスネてやる。拗ねまくってやるからな！！それが出来ない親は、親の資格ないのよ！！」みたいな人生。

ずーっとそれで育てられ、育ててきてしまった「スマホおんな」さん達が、今、道路上で展開されている姿の元なのではないか？と思ったので、そんなフレーズが浮かんだのかもしれない。

はっきり言って

「バカか、てめえら。キモいだけだぞ。寄ってくるな。あっちへ行け！！邪魔くさいから、消えて失せろ！！」

と言いたくもなります。本当に。

あまり人様の悪口ばかり言っていると怒られそうなので、此処で少し話を変えて、我が家のことについていささかお話をさせていただきます。

実は、息子が高校の時に荒れた時期がありまして、その折、自分の母親を蹴ったことがあったのですが、その後その母親は暴力を怖れて息子に迎合したというか、ご機嫌ばかりをとる、顔色ばかりを伺うような「いいなり母さん」なってしまったのです。

息子が何で今のような、家を占拠するまでの状態になったかについて、今までの息子さんの人生の中で、エポックメイキングな事柄がなかったかとの、去るエライ法律の先生の質問に答えてその話をしたのですが、その話を先生がお聞きになって、ただ一言

「馬鹿な。何て言うことを・・・」

とおっしゃって絶句してました。その態度から察するに、本来なら断固として、毅然とし態度を取るべきであったのをそうしなかったのが今日の混乱の大木は要因であることが感じられました。

実はその息子ですが、小学校の頃にいじめに遭っていたようでした。それを知ったのは親として不明なことにもかなり後年になってからです。それを知ってどうしてそのような目に会う羽目になったのかを聞いた折に、返ってきた答えは「みんなの退屈しのぎに無作為に選ばれただけ」と言うものでしたが、何となく実感が湧きませんでした。

それで長年あれこれ考えていたのですが、最近になって

「ひょっとして僕のせい？ぼくの言うとおりにしようとして、妙なことを言うヤツだとな仲間はずれにされたのではないか？一人だけ良い子ぶんなって」

と思い始めたのです。

それというのも、僕の日頃言うことは、世間とは反対のことが結構多かったらからです。以前にも書いたと思いますが、改めて此処で言うと、例えば世間では「楽ができるようにやれ」と言うのに対して「苦勞は買ってでもしろ」であったり、「得するように動け」というのに対しては「人がではなく、まず自分が損をしろ。すべてはそれからだ」と言ったような具合だったのです。

はじめは僕の意見に従っていろいろやっていたのかもしれませんが、そのうち「なんだかこりゃヘンだぞ。みんなはまるで違うことを言っている。しかもお父さんの言うとおりにやることはとても大変だし難しい。そんなに苦勞をしてやっているのに、却って逆にみんなからは仲間はずれにされてしまった。なんじゃ、こりゃ！一体！」

それが元で息子はばかばかしくなって、荒れ始めたのかもしれない。

しかし、親父は相変わらず同じ事を言い続けて、オマケにご機嫌を取ったりもしない。反対に、母親は何でも言うことを聞いてくれるし、前よりは遙かに世間と同じようなことを

言いだしている。

そう思ってむすこは、僕を忌み嫌い、母親の方により親和性を感じたとしても不思議はありません。

「母親は自分のご機嫌を取ってくれる。世の中世間一般の家庭でも親が子のご機嫌伺いをしている。だからあいつだけがへんなんだ」

それから息子は、ことあるごとに僕の考えを否定して掛かるようになりました。もちろん一心同体化しつつある母親も。強いて言うなら最早理屈でどんな正しいことを言っても、それはまるでどうでも良いことで、否定する最大の理由は「それは、おまえがいったことだからだ」になってしまっていたようです。

それでも、息子の中には僕が日頃から言っている言葉の残滓がどこかに残っているらしく、話をした後、家を出てなにやら世間に対して戦いを挑んでいる様子が伺え、しかしそこで負けて家に戻ってきたりすることを何度かくり返す事が度重なり、その度重なりの中で葛藤状態が深まっていったようです。

そうしてとうとうそれが高じて、どっちつかずの状態に耐えられなくなり、苦しいばかりの立場に立つことを押しつけてくる僕を「切る」ことにしたのだと思います。

そんな折、むすこはあるところである術を覚えて来「話し合おう」と言う手段に出てきました。

しかし、その実、既に僕を切ってしまっている息子の求める「話し合い」というのは、お互い対等、50対50、それぞれがイーブンの相互受け入れなどではなく「自分の言い分の100%受け入れ要求」または「僕の息子への隷属化」つまり「息子の意見」による僕への「強姦行為」以外の何物でもなかったのです。

そうして、お互いの意見の争いが更に高じて今回の事態に至ってしまったような気がしています。もちろんこれは僕の一方的な推測にしか過ぎませんが。

無論、その推測ですらも、僕は自分だけが全部正しいなどとは金輪際思っているわけではありません。しかし、やはりどうしても全部間違っているあるいは居たとも思えないのです。

話を元に戻しましょう。

うちは男の子二人ですが、女の子の話に戻しましょう。

そう言えば最近やたらと不機嫌な顔をした女性をよく見かけます。特に10代後半から40代の半ばくらいまでの女性です。未婚既婚にかかわらずです。若いお母さん方もお子さんを連れながらとても仏頂面をして、かんかんこんこんと道と喧嘩しながら靴音高く歩いたり、チャイルドチェアをつけた自転車を暴走族まがいのスピードで歩道の上をぶっ飛ばしたりしているのです。

それを見る度に僕は

「スネんじゃねえよ。子供の頃の親みたいに、世間や周りがちやほやしてくれないからって。スネんじゃねえよ。いい歳こきやがって。身体だけじゃなく、頭や心も大人になれっ

てんだ。このドあほどもが。甘ったれんな！！てめえ大人だろ！人の親だろ！いい加減にしろ！！」

と。

その実、職場や家庭では、その社会的地位とは別に、まさにその裏で旦那さんや彼氏や上司達の「陰の実行支配者」である「スマホおんな」さん達が「してくれないと拗ねてやる。拗ねまくってやるけど、いいのよね？」を武器に、彼らを脅し、恫喝をかけて居るような気がしてなりません。

しかも、最近では、更にその実効支配の完成を求めて、今度は表の世界での「女性の権利」をまだ足りない、まだ足りない「社会の弱者」の衣をまとって騒いでいる訳でしょう？

僕が怖れるのはこの実効支配が表裏、名実ともに完成したときなのです。その暁にはすべからく男性は、スマホを片手に先頭を切ってとっこ歩きをする「スマホおんな」、その後を自信なさそうに子供をだっこして付いていく男性との完全不平等条約が生む、とんでもない世界が現出することなのです。

それは、ここ一週間の間、飛んでくるかもしれない北のある国からのミサイル攻撃よりも遙かに悲惨な結果をうむことになりはしないかと心配でなりません。外敵ではなく、内部崩壊の更に確実で恐ろしい結果をもたらす自滅の恐怖です。

とにかく自分を筆頭に話ですが、「男女行道条約」を結んでいる「まっとうな人達」に会うのに本当に苦労しています。本当に少ない気がします。

一刻も早く大勢の男女が「平等条約の交渉のテーブル」に付かれることを願ってやみません。陰の「フィクサー」は表舞台に出て、後ろに付いていた「付き人」はもっと堂々とした態度で、フィクサーの横に共に並んで歩かれんことを。

もちろん是に冠しては、自分を筆頭に話であることに間違いはありませんが。